

第 30 回 木津川上流河川環境研究会

議事概要

【開催概要】

開催日時： 平成 29 年 2 月 24 日 (金曜日) 15:00～17:00

開催場所： メルパルク京都 6 階 会議室 6

【出席者】

委員： 7 名

事務局： 木津川上流河川事務所 7 名

オブザーバー： 水資源機構関西・吉野川支社 2 名

水資源機構木津川ダム総合管理所 2 名

水資源機構川上ダム建設所 1 名

【議事次第】

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

(1) 木津川上流河川環境研究会について

・ 前回 第 29 回研究会等指摘対応の確認

(2) 堰・魚道 連続性再生検討

・ 縦断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針

・ 横断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針

(3) 河道内樹林管理検討

・ 本年度の調査・検討結果と今後の方針

(4) 河川ダム 水量・水質検討

・ 本年度の検討結果と今後の方針

(5) 河川工事実施に係る環境保全への助言について

(6) その他

・ 堤防の植生転換事例紹介

・ 次年度の予定について

4. 閉 会

【配付資料】

- ◆議事次第 / 席次表
- ◆資料 1 : 第 29 回木津川上流河川環境研究会 指摘対応
- ◆資料 2-1 : 木津川上流 縦断連続性再生検討資料
- ◆資料 2-2 : 上野遊水地 横断連続性再生検討資料
- ◆資料 3 : 河道内樹林管理検討 資料
- ◆資料 4 : 河川ダム水量・水質検討 資料
- ◆資料 5 : 河川工事実施に係る環境保全への助言について
- ◆資料 6 : 堤防の植生転換事例
(参考資料) 木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約
(参考資料) これまでの成果
(当日配布資料) 特定外来生物コクチバス注意喚起資料

【審議内容】

(1) 木津川上流河川環境研究会について

事務局より、木津川上流河川環境研究会における検討経緯、および前回研究会（第 29 回）及び各ワーキンググループにおける指摘の確認と、その対応方針について説明を行った。

(2) 堰・魚道 連続性再生検討について

1) 縦断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針について

事務局より、縦断連続性再生検討に関する本年度の調査・検討結果と今後の方針について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・関西電力（堰管理者）により相楽発電所井堰での魚道改良が実施されたこと、地域住民の意識向上に向けた課題整理が行われた等、順調に取り組みが進んでいる。それぞれの井堰において地域の事情を踏まえ、今後も取り組みを継続するとよい。
- ・関西電力による自主的な魚道の簡易改良等の取り組みは、相楽発電所取水井堰での竹門先生や谷口先生による漁協と連携した働きかけによる成果でもあるだろう。これまで難色を示していた魚道の簡易改良を今回行ってくれた背景はなにかあるのか。
⇒谷口先生の働きかけなど、多方面からの継続的な働きかけが取り組みの実施に繋がったと考えている。
- ・「平成 28 年度 京都大学防災研究所 研究発表講演会」にて、竹門先生が、淀川水系におけるアユに関する取り組みについて総括的に報告を行っている。
- ・コクチバスは、現在は上流にて確認されているが、今後は下流への分散が懸念される。阿武隈川では全川へ分布が拡大しており、九頭竜川でもダム湖のコクチバスが下流側へ分布を広げたとの事例もある。淀川でイタセンパラの保全に取り組んでいる地域への影響も懸念される。今後も、継続的な実態把握を行ってほしい。魚類調査に加えて、バスフィッシャー（ダム湖利用者）の把握を行うとよい。また、分散防止のための周知（チラシの配布などの啓発活動）にも取り組む必要がある。これらの取り組みは漁業協同組合や環境省との連携も視野に入れていく必要がある。

2) 横断連続性再生検討：本年度の調査・検討結果と今後の方針について

事務局より、横断連続性再生検討に関する本年度の調査・検討結果と今後の方針について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・水田魚道について、他地域での設置や遡上効果の確認の実績はあるのか。
⇒設置されている事例はあり、今回の設置箇所は多くの魚類が確認できていることから効果も期待できる。しかし、水田魚道を農家が自主的に設置している事例は少ない。
⇒水田魚道は、10 数年前から設置されており、実績もある。
- ・小田川魚道は、今回の調査結果より、タモロコ等の遊泳力のない魚類の遡上も確認されていることから、魚道は機能していると言える。
- ・小田川魚道のゴミ取り等の維持管理については、随時、気がついた人が、事務所等へ報告してもらう等の仕組みを構築できるとよい。今後も土砂が堆積してくる可能性もあるため、地域と連携し、取り組んでいくことが望ましい。
⇒伊賀川漁業協同組合も小田川魚道には関心を持っているが、自らゴミを撤去しようという形には至っていない。近傍の小田遊水地の堤防で実施している「ヤギによる除草」も地域連携を模索しており、将来的にはこれらとあわせて取り組めないかということも考えている。
- ・魚道の維持管理を地域住民に取り組んでもらえるような動機づけが必要である。水田周辺で地域の取り組み意欲がわくような対象が必要である。小水力発電においても、小田川魚道と同様に水草等の流下物がつまるが、地域住民は必要性から自ら除去活動を行っている。小田川魚道においても、同様の仕組みができるとよい。
- ・この地域はかつてはナマズで有名であり、ナマズは目標種になりうる。しかし、現在はあまり知られていないことから環境学習の際に、ナマズが水田にもたらすメリットを伝えるとよいのではないかと。また、ナマズが地域の活性化やモチベーションの増加につながるとよい。
⇒過去に漁協にヒアリングを行った際に、特に高齢の方々は、子供の頃に出水後に水田でナマズを捕獲して食べていたという話を聞いた。他地域ではナマズが生息できる安心安全な水田で作った米であることをアピールし「ナマズ米」としてブランド化している事例もあり、ここでも安全安心な米としてアピールしていくということもきっかけにできればと考えている。
- ・この地域には、ナマズに関連している大村神社があり、地域文化と結びつきがある。「ナマズの博覧誌（秋篠宮文仁、緒方 喜雄、森 誠一 著）」には、文化史についても記載しているため、参考にしてほしい。
- ・ブルーギルの駆除に、ナマズを利用する研究も行われている。外来種駆除の観点からも、在来種であるナマズの活用が期待できる。
- ・小田川魚道に堆積するゴミは、魚道出口部に水の流れが集中することが要因であるため、上流側に仕切り板を設置することで、ゴミが左右に分かれて流れ魚道への堆積を少なくできる可能性がある。

(3) 河道内樹林管理検討について

事務局より、河道内樹林管理検討に関する本年度の調査・検討結果と今後の方針について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・河道内樹林管理の視点として、治水上の優先度から対策を進めるという考え方、分布拡大している箇所を優先することで予防保全に努めるといった考え方の2つがある。
- ・これまでの検討成果を踏まえて、伐採箇所や伐採方法を選定していくことにより、全体としての治水効果もあがっていく。
⇒これまでの試験伐採により「費用と効果」におおよその傾向がみえてきた。今後も試験伐採を継続し、費用対効果の考え方を確立させていきたい。

(4) 河川ダム 水量・水質検討について

事務局より、水量・水質検討に関する本年度の調査・検討結果と今後の方針について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・流域での活動を負荷量として数値化や図化し、結果として河川の水質との関係性を評価してきたことが、流域の水環境管理上、特徴的な取り組みであった。
- ・淀川水系の3川で水質の比較を行ってきた。笠置町から南と北で流域が上下流に分かれているが、上下流での負荷量を把握し、汚濁負荷の関与の点で対比して位置付けを確認しておくことが必要である。
- ・木津川上流域の河川は、河川の特徴から木津川本川と名張川の2つに分かれる。名張川は流域にいくつかのダムがあり、特に最下流には高山ダムがあり、水量水質の点で変動係数が小さい。このため、下流への影響は緩和される。一方、木津川本川はダムがなく、水量水質の変動が大きい。河川環境管理上では、両者の流域を分けて、汚濁発生要因や水質現状について整理することが、今後の参考になると思っている。
- ・大腸菌群数について、自然由来のものが多いとあるが、全国的に同様の傾向が見られるのか。
⇒全国的に同様の傾向にある。ただし、木津川では夏季に糞便性大腸菌群数が増加している。流域内での生活系または家畜の課題が一部残されていることが示唆される。

(5) 河川工事実施に係る環境保全への助言について

事務局より、河川工事実施に係る環境保全への助言に関する本年度の調査・検討結果と今後の方針について説明を行った。

- ・工事の数年後の状況についても、今後の研究会で随時報告をお願いしたい。

(6) その他

木津川上流河川事務所にて実施している低草丈種への植生転換の詳細について、説明を行った。

これまでの成果、経緯について、説明を行った。

次年度の研究会の予定について、9月頃を想定していることを説明した。

座長が本日の研究会をもって退任することから、「木津川上流河川環境研究会 規約」に基づき、委員の互選により、新たな座長が選任された。

以上